



紙 関 機 協 労 建 道



Council of Road Construction Worker's Unions(C.R.U)

道路建設産業労働組合協議会

〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11（日本舗道労働組合内）

電話03 (3562) 5857

URL.<http://www1.ocn.ne.jp/~cru>

2000年度の活動を振り返って

議長拝命2年目となりました
この一年を振り返って思いつく
ところを述べさせていただきま
す。



議長 丸山祐二

- ① 加盟単組の支援
- ② 組織の検討
- ③ 産業政策活動
- ④ 地方協議会の支援

①の単組支援については、春闘や各単組労使協議事項にあるように各企業・単組間での問題点が多様化してきました。そのため支援策として個別の提案事項に対し、構成組織の経験や対応策を紹介すると共に幅広い選択肢を提供し、協議に役立つよう情報収集を行いました。

②組織の検討

「道建労協のめざすもの」に基づき、建設産業労懇という枠組みの中で建設産業労働組合の将来を見据え、組織の再編について意見交換を行いました。

編成の必要性等について意見交換を行いました。将来に向けて組織の基盤を固める必要があり、状況を踏まえながら十分な検討が必要などありますが、各単組の事情もあり、一定期間の内に結論を提示することが必要な時期になりました。次年度はそれに向け積極的な討議を行い方向性や選択肢を提示したいと思います。

③については次の2点について行いました。

「関係官庁への活動」として建設産労懇のメンバーと合同で国土交通省を訪問し、労働時間の問題や建設産業の雇用問題とその対策について意見交換を行いました。これを機に毎年継続協議することを申し合わせました。

また「関係団体との交流」については 土曜閉所運動を各県の合材協会と幹事会社である大手道路建設会社の支店(社)を訪問しました。

④の地方協議会については地協独自の考え方にも配慮し、独自性を重んじると共に本部地協間交流や各地協間交流の活発化を目指しました。来年度は本部地協間及び地協間交流をさらに活発化するよう、地協代表者会議の参加者の増員と会議の独立を行いたいと思います。

地協のない5地区は、来年以降はレクリエーション取り入

第16回定期大会が開催されます

1年間の集大成である定期大会が来る7月30日（月）に東京都荒川区東日暮里、ホテルラングウッドで開催されます。昨今の非常に厳しい状況下ではありますが各単組代表の代議員の皆様による活発な意見・討議を期待しております。執行部一同、より一層の団結を図っていくと共に明るく且つ前向きに取り組んでいきます。

今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

れた活動をします。

最後に建設産業の現状は厳しく企業の生き残りをかける努力で精一杯ではありますが、労働組合活動も情報源であり、また人を結びつける大きな機能を有する建設産業発展のための両輪となるものです。今後ともご理解をいただきさらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

▲今年4月の自民党総裁選の結果、小泉純一郎首相が誕生した。そして、「聖域なき構造改革」を旗じるしとした小泉新内閣は支持率が80%を越し国民からは絶大な支持を受けているようだがここで私たち道路舗装業界で働く者として気になる問題が急浮上にもおそれる。それは年間6兆円にもおよぶ道路特定財源の使途見直しの議論である。道路特定財源が一般財源化される道路整備以外に使われることになれば、パイの縮小は避けられず、ただでさえ公共投資の圧縮、地方財政の悪化などで確実に市場規模が縮小している現在の状況に輪をかけて厳しい状況になることが考えられる。そして、現場で汗を流して働いている私たちの生活や働くという問題に発展することも予想される。

今まで建設業界が雇用の受皿という役割を担ってきたが、その分野では官公需法のもとでも流さずに利権を貪って利益を得ている輩がいるという問題を無視してはならない。市場規模だけ縮小する議論以前に、建設業の抜本的構造改革を優先するべきではないでしょうか。本機関紙が組合員の皆さんの手元に届く頃には参議院選挙の頃だと思えます。参議院選挙の前哨戦と目されている東京都議選では自民党が勝利しましたが、参議院選挙の結果も含め小泉内閣の今後の成行きが非常に気になるところです。

(東亞道路労働組合 栗田)

各地区単組交流会開催!!

今年も地協の無い地域の単組交流会を5カ所で開催いたしました。

北海道、関東、中部、関西は地方協議会が既に10年以上にわたって活動をしておりすが、その他の地域は他単組はもとより道建労協本部とのつながりも、活動が機関誌PAVEにおいて紹介される程度でなかなか伝わりづらいものがあります。そこで、毎年本部が地協の無い地域を訪れ、その地方特有の課題について話し合い、また単組間での情報交換する場を提供しております。

今年は以下の日程で、各地域、各単組の抱える問題点や労働時間短縮に対する取り組みについて話し合いがもたれた。また、来年以降はレクリエーション活動を取り組むことが申し合わされた。

5月23日(月)	四国地区交流会	高松東急イン
24日(火)	中国地区交流会	チサンホテル広島
25日(水)	九州地区交流会	博多パークホテル
28日(月)	東北地区交流会	仙台ホテル
29日(火)	北陸地区交流会	新潟グランドホテル



四国地区交流会



中国地区交流会



九州地区交流会



東北地区交流会



北陸地区交流会

四国地区交流会

初めて、交流会に参加し他社の方々と意見交換ができ有意義な会であったと思います。大変な時に、組合の役員をされ苦勞されていると感じました。特に、丸山議長と最後まで意見交換(?)ができ、公私に渡りひじょうにエネルギーでありました。(私と同じ年とは思えない)

追記 本部役員は酒豪でないと思われないのでは・・・

幹事 前田道路労働組合 河野 司

中国地区交流会

6単組13名が出席し自己紹介、単組毎の活動・日常業務の報告が行われ、問題点等について意見交換が行われた。各単組とも地域独自の労使交渉や時短に対する取り組みについて具体例を交えて発表してもらい非常に参考になる意見交換が出来たのではないのでしょうか。又各単組、最大関心事?であった頭の痛〜いISO問題が提起されると、より活発な意見が出され各社の進行状況を聞き、胸を撫で下ろしていたようです。夜の交流会もまた大いに意見交換をし、流川・薬研堀で旋風を巻き起こしていたようです。道建労協本部の皆さん、お体大切に!!!また広島で会いましょう。

幹事 大成ロテック社員組合 小山 郁文

九州地区交流会

7単組13名の参加。今回は初参加者も多く特に議題を設けずフリートーク形式で行われました。はじめに各単組の活動内容が紹介され、その他に第2・第4土曜日の休日活動や国土交通省発注・公募型工事における技術者の異動に関する問題、組合員の組合意識(特に若手)についてなど様々な意見交換が行われました。

各単組とも共通の問題点が多く、有意義な意見交換となりました。

幹事 日本舗道労働組合 永井 哲

東北地区交流会

8単組(支部役員クラス)が参加し、本部を含め17名の参加を見込んだ。主に時間外労働の現状や各種アンケートによる会社側へのPR(奥様アンケート等)等活発な意見交換がなされた。

最後に、東北エリアの交流会推進の一環として、レク事業(年1回程度)の提案がなされ雰囲気盛り上がる中閉会した。

幹事 日本舗道労働組合 伊東 晃

北陸地区交流会

今回の交流会は5単組9名と少人数ではありましたが、少人数であったため全員が発言した交流会になりました。意見交換の後、同ホテル内に懇親会も行いました。新潟市内は翌々日のコンフェデ杯が予定されており、熱気に包まれておりました。私たちもその影響か、意見交換会以上に盛り上がる事ができました。私自身はじめてこの交流会に参加させていただきましたが、いろいろな問題点や道建労協の活動の意義を感じることのできた交流会だったと思います。

幹事 東亜道路労働組合 菊池 康行

単組代表者連絡会議開催(地協代表者会議同時開催)



6月29日(金)栃木県今市市において、今年度第4回目の単組代表者連絡会議が開催された。また、今年度2回目となる地協代表者会議も同時開催し、総勢24名の参加となった。連絡会議では、2001年春闘・一時金交渉結果報告、今年度の活動報告とその反省点、来年度の運動方針案、今後の組合組織のあり方について話し合った。

また、地協代表者会議では、今年度の活動報告と今後の活動予定、本部からの提案による本部・地協共通テーマ(土曜閉所運動)の設定とその具体的な統一行動について話し合った。(検討の後、承認された方針の詳細については、次号(55号)に掲載します)

建設業を取り巻く社会情勢が益々厳しくなる中で、単組事情の相違が今後の道建労協の活動に何らかの変革を求め、組織のあり方、組織の目指すものの確認、守るべき活動内容の範囲等、今後、計画的な検討の必要性が提議された。

午後1時から午後8時まで開催された会議は、緊迫した雰囲気の中で執り行われ、今後の建設産業の動向と同じく、先行の不透明感を払拭することが、組織の存続にとって必要不可欠であるとの認識を再確認できるものとなった。

「労働実態」アンケート調査結果報告

2000年11月調査

道路建設産業の労働環境の実態を労使協力して対外的に示し、事業主や関係機関さらには本来の意味での発注者である国民（納税者）に理解を得る必要があります。そこで道路建設産業において特に問題となっている夜間工事、上請け問題、休日勤務をとりあげ、今後の活動の上での貴重な資料として活用することを目的に実施しました。道建労協加盟単組組合員8,580人の約5%の433人を対象に実施しました。各単組において割り振られた人数を地域、年齢等にはばらつきがないようお願いし、403人の方から回答をいただき、回答率は93.1%でした。

（１）夜間工事関係

「この１年間で夜間工事に延べ何日くらい従事しましたか。」という質問に対して地域別にみると東北、近畿を除き全地域で7割以上の方が何らかの形で夜間工事に携わっています。特に関東、北陸、四国では3ヶ月以上従事した方の割合が他の地域に比べ多く、年齢別ではやはり若い人ほど夜間工事に従事する割合が高くなっています。

「夜間工事で一番問題があるところ」については労働時間に問題があると応えた方が一番多く、次に労働時間と関係が深い健康面、安全面が続いています。意外と対人関係については少ない結果となりました。

具体的な問題点、対策については次の通りです。

①労働時間

発注者や取引業者との打ち合わせ、工事箇所の住民への対応、施工の段取り等は日中行わなければならない、その後夜間の施工、書類整理と拘束される時間が非常に長くなり、長時間労働となる事が一番の問題です。また、夜間工事期間中は昼夜が逆になってしまい、家族とのふれあいの

時間、友人との交流の時間も取れず、人間関係が希薄になってしまうという声もありました。

②安全面

照明設備を使用するが、どうしても視認性が悪く、死角がしやすい。交通量は減るが、その分一般車の速度が昼間より速くなり、一般車の飛び込み、工事車両との接触等いくら安全管理を徹底しても避けられない事があります。

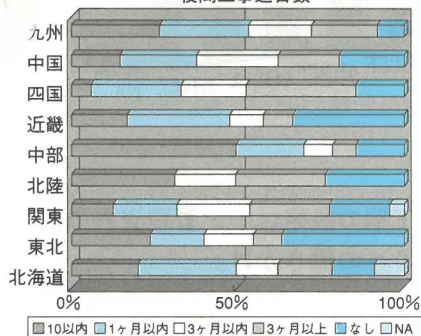
③健康面

労働時間との関係が深く、睡眠不足、体調不良、心身共に疲労困憊となるという声が多くありました。

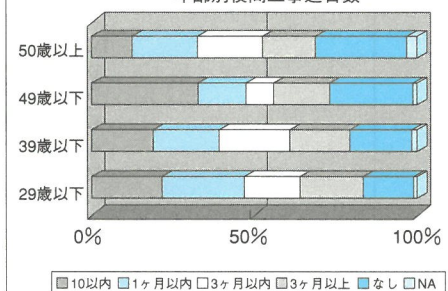
④対人関係

得意先等との連絡が取りにくい、住民対策等の問題がありました。やはり対策としては2人以上の体制が望まれています。

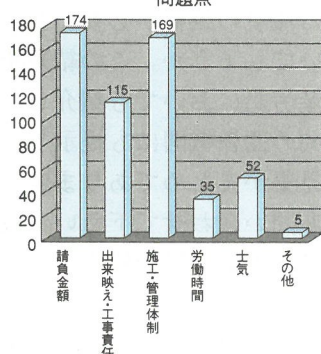
夜間工事延日数



年齢別夜間工事延日数



問題点



（２）上請け問題関係

ほとんどの人が問題ありと考えています。問題があると答えた人の中からどのような問題があるか6つの選択肢の中から選んでももらいました。一番問題と思っているのが請負金額で、次いで施工・管理体制、出来映え・工事責任と続いています。

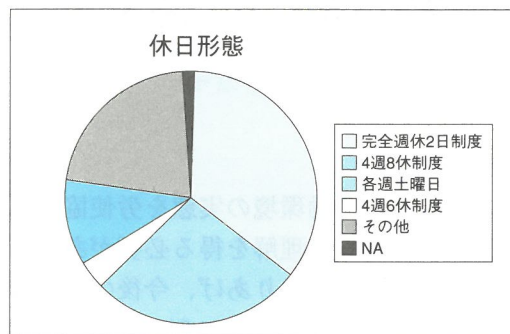
（３）休日勤務関係

道建労協加盟単組ではほとんどで完全週休2日制若しくは4週8休制が導入されていますが、現場の実態としてはまだまだ浸透していません。休日出勤日数は年間平均で一月当たり3日から4日が最も多く、繁忙期に入ると極端に多くなり、5日から6日が一番多くなり、7日以上出勤が大幅に増えています。

休日出勤を減らすにはどのようなことが必要ですがという質問に対しては「事務所での交代勤務等の積極的な取り組み」が一番多く、「事業所の閉所」が続いています。休日勤務の問題点や行って欲しい活動については次の通りでした。

①会社・事務所内

- ・現場に従事する職員の数を増やし、交代勤務のできる環境。
- ・上司が休日出勤を当たり前だと考えている。
- ・業務の効率化を図る。
- ・休日出勤をしたら代休を必ず取らす事を義務づけ、違反したらペナルティーを課すぐらいの指導をして欲しい。
- ・非組の人は休んでいる人が多い。代わりに施工管理してもらう日を決めてもよいのでは。
- ・書類の簡素化。

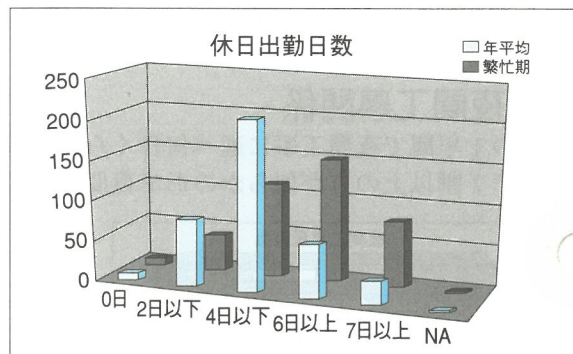


②本人

- ・自分の責任で休日が取得できるよう仕事を進めていく事が必要。
- ・すべて事業所、施工担当者次第なので労働組合は関係がない。

③下請・資材

- ・日給による作業員を下請で使っているうちは難しい。
- ・合材協会へのアピール（合材工場の出荷停止）。
- ・事故等の緊急事態を考えると下請が休めるような業界にしなければならない。

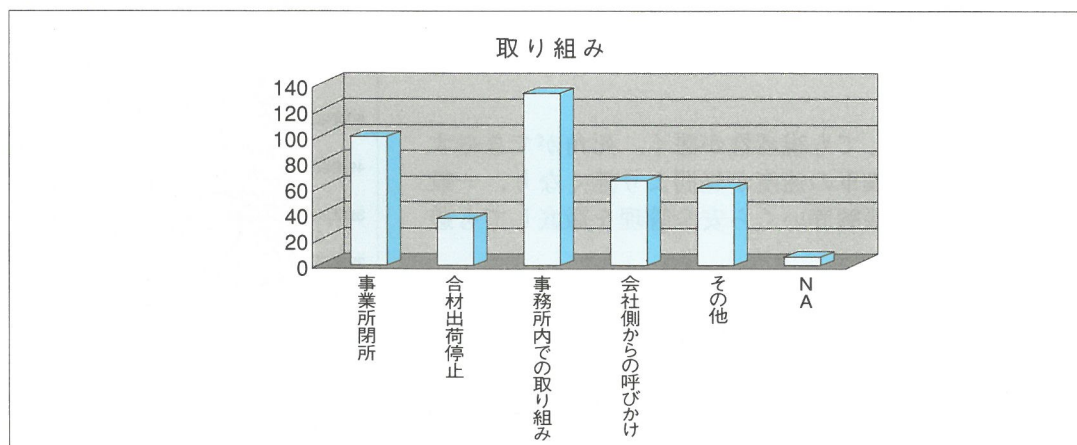


④発注者

- ・年間を通しての発注の平準化。
- ・質的な施工時期、施工量に見合った適正な工期の設定。
- ・管理資料の簡素化。
- ・土日の施工を止める指導をして欲しい。
- ・不良不適格業者の排除。
- ・発注者への働きかけ。

⑤その他

- ・業界全体で取り決めを作り、それを徹底するしかない。
- ・会社、業界、社会へ組合から働きかけて欲しい。



最後に

構成人員に比べサンプルは少ないですが、実に多くのかつ参考になる意見を聞くことができました。これらの問題は労使で話し合って解決する事も大切ですが、それ以上に道路建設産業がおかれている環境の改善が必要であり、言ってみれば労使で協力して、関係機関に状況をPRすることや理解を得ることではないでしょうか。この結果をみなさんに公表することはもちろんですが、私たち建設産業の労働組合の仲間である建設産労懇においても紹介し、道路建設産業の実態を認識していただくことと、各経営者団体や建設業団体、さらには公共の関係機関にも提示し、理解を深めていただく所存です。尚、このアンケート結果には他のデータやたくさんの意見集がまとめてあります。紙面の都合で掲載できませんが、詳細については各単組の本部に送付しておりますので是非問い合わせ下さい。最後になりましたが、お忙しい中、質問の大半が記述式である等アンケートに協力してくださった組合員の皆様に、改めてお礼申し上げます。

議長 丸山 祐二

全事業所第2・第4土曜日一斉休業実現に向けて！

6月の「第2・第4土曜日の事業所一斉閉所運動」に先立ち、道建労協では個人個人や単組毎の取り組みではなかなか改善出来ない問題を業界全体の取り組みとして前進させて行こうと、各加盟単組の企業と業界団体を訪問し、この運動への理解と協力を求め要請を行った。今回は別報の「地協の無い地域の単組役員交流会」に合わせ、各県のアスファルト合材協会と加盟単組企業を訪問し、合材工場の閉所を地域の問題として推進してもらうよう要請を行った。

特に合材協会をターゲットとしたのは、中国地方をはじめ一部の地域では、合材工場が第2・第4土曜日の出荷を停止しており、合材工場のみならず、工事部門も土曜休日を取得しやすい環境が出来ている例があり、合材工場の土曜閉所が土曜休日取得に大変有効であるため、他の地域にも範囲を広げたいとの思いからである。実現のために各県の協会役員と直接対話をし、厳しい労働環境の現実と組合員の心情を訴え、またその地域の特性を聞きながら、一個人一企業では進まない土曜休日取得を、地域全体の目標としてもらうためである。今後も集中的に各県の合材協会に対し要請と情報の提供を行い、土曜休日取得ができる環境の実現に向け、全国に展開していく予定である。

今回の「第2・第4土曜日の事業所一斉閉所運動」が達成出来なかった事業所も、日頃よりの職場全員での「休む努力」が大事です。あきらめてしまふことなく個人の努力を積み重ね、事務所ぐるみで取り組むことで少しづつでも前に進むことは可能です。皆で休めるよう頑張りましょう。



大成ロテック(株) 四国支社にて

- 5月21日 香川県アス材協会、大成ロテック(株)四国支社、前田道路(株)四国支店
- 5月22日 岡山県アス材協会、前田道路(株)中国支店
- 5月23日 山口県アス材協会、大成ロテック(株)九州支社
- 5月24日 兵庫県アス材協会、大阪アス材協会、日本舗道(株)関西支店、東亜道路工業(株)関西支社
- 5月28日 日本舗道(株)東北支店、東亜道路工業(株)東北支店
- 5月29日 宮城県アス材協会、前田道路(株)東北支店、東北地区アス材協会連絡協議会
- 5月30日 東亜道路工業(株)北陸支店、日本舗道(株)北信越支店、前田道路(株)北陸支店
- 5月31日 日本道路建設業協会、日本アスファルト合材協会

建設産労懇労使セミナー開催！

さる6月4日(月)東京都荒川区東日暮里にあるホテルラングウッドにて、労使セミナーを開催しました。

今回は「ゼネコン大破壊」(東洋経済新報社刊)の著者である尾野村祐治氏をお招きして、建設産業を取り巻く環境と今後の建設業の方向性、そして労働組合として取り組むべき活動について講演をいただきました。

講演内容の詳細は、戦後の建設業界の秩序が破壊され、再構築されるといふ予見を表現した「破壊」という言葉の定義からはじまり、そこに至るまでの歴史的背景、ゼネコンだけに限定できない痛みを伴う改革の必要性、労働運動の改革の必要性、今後の展望をふまえた企業、個人の存在意義の重要性等、著書の要点をわかりやすく解説していただきました。また、講演後の質疑応答では時事にふれた質問に対し、非常に興味深い回答をいただくことができました。



講師の尾野村 祐治氏

中部地協・建設連合愛知



5月27日(日)に恒例であります建設連合愛知との合同の潮干狩りを、今年も各組合員の日頃(?)疎かにしている家庭サービスも兼ねて総勢523名が集い、魚のつかみ取り、親子のふれあいを一日楽しみました。当日は前夜からの雨の影響も残りましたが、始まる頃には天候も回復、会場のあちらこちらでバーベキューや採ったアサリを酒蒸しにしてつまんでいる光景も見られました。が、そこはそこでさすが、中部地協の役員の方々。酒蒸し用のお酒を「こんなおいしいお酒は飲まなきゃ損!」とばかりに飲み始めた大〇ロ〇〇クのC副議長はじめ、生まれたばかりの子供の”沐浴”を兼ねてた日〇舗〇のS議長。数ある中部地協の行事で家族が参加できるこのイベント。来年も行いますので、是非皆さんもご参加ください。

中部地協 事務局長 竹山周作(全大有労働組合)

物知りクイズ「カルト芸能編」当選者発表

前回の物知りクイズ(第53号PAVE)の当選者が決定いたしました。菜々子様入籍でファンの減少か?応募者が少なく、又、Q3で「信長」と答え、全滅した単組もあり、全問正解は7名でした。下記の方々に粗品をお送りいたします。ご応募ありがとうございました。

- 前回の答え Q1 少年マガジン
(反町隆史♥松嶋菜々子様が共演したフジテレビのドラマ「GTO」の原作を掲載していた少年誌)
- Q2 サクセス
(ドラマ「やまとなでしこ」で菜々子様と共演した堤真一が以前CMで宣伝していた育毛剤の商品名)
- Q3 花の生涯
(NHK大河ドラマの第1回作品…因みに来年の大河ドラマは菜々子様出演の加賀百万石物語「利家とまつ」)
- Q4 ロングバケーション
(山口智子と木村拓也の共演で高視聴率をあげたドラマ)
- Q5 ジャニー喜多川
(SMAPの所属するジャニーズ事務所の社長)

当選者 松岡 明代 (全大有労働組合)
黒川由美子 (全大有労働組合)
元宗 久美 (全大有労働組合)
松浦 泰明 (全大有労働組合)
長岐 彩 (大成ロテック社員組合)
馬道 康德 (大成ロテック社員組合)
久安 真樹 (前田道路労働組合)
(敬称省略)

これからも物知りクイズをよろしく願っています。

単組委員長登場!



東京舗装工業社員労働組合 安田委員長

安田委員長の紹介

現在、木更津営業所に勤務しながら組合活動に従事しているため、本人いわく、多忙ではあるが充実した日々を過ごしているそうである。

出身は北海道であるが寒さにはめっぽう弱く冬が苦手ということで、見かけによらない夏男である。

学生時代から、バイクでツーリングが趣味で愛車の400ccのオートバイで九州まで遠征したこともあるとか。今はもっぱら二人の子供に手を焼き、休日は家族サービスに徹しているというが、いつか大型バイクで日本各地をまわりたいという夢は捨てきれずにいる単身赴任男の辛いところである。

現在、細君の実家である福島県に家を新築中。毎週末に家族のもとへ帰っていく後ろ姿には男の哀愁が漂っている。

(紹介者 東京舗装工業社員労働組合 書記長 古里 正一)

物知りクイズ「カルト夏休み編」

子供達が待ちに待った夏休みの到来!そこで今回はカルト夏休み編です。

- Q1 夏休みといえば海水浴!
安直な発想ではあるが定番の行楽である。
暑い夏の海で食べるかき氷は格別の味。そこで問題です。
今、巷で流行っている赤城乳業(株)のかき氷バー「ガリガリ君」シリーズに存在しない味は次のうちどれでしょう。
(1. コーラ 2. ソーダ 3. 夏みかん
4. いちごスカッシュ 5. ホワイトサワー)
- Q2 夏休みといえば昆虫採集!
小生の年齢がわかってしまう気もしますが。
昆虫の中で一番人気はやはりカブトムシであろう。
次のうち実在しないカブトムシはどれでしょう。
(1. ネブチューン 2. サタン 3. ヘラクレス
4. ケンタウルス 5. ビーナス)
- Q3 夏休みといえば遊園地!どこにいても混雑していますが、中でも今春オープンしたUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)は一度は訪れてみたい場所である。
次のうち実在しないアトラクションはどれでしょう。
(1. ジョーズ 2. ダイハード
3. ジュラシックパーク 4. ウォーターワールド)
- Q4 夏休みといえば田舎の澄んだ空気の下で見上げた夜空!
そこに輝く星座の美しさは誰もが記憶にとどめていることでしょう。
次のうち日本の夏の夜空では見ることができない星座はどれでしょう。
(1. はくちょう座 2. オリオン座 3. こと座
4. わし座 5. へびつかい座)
- Q5 最後の問題です!夏休みが終わっても落ち込んでいる場合ではありません。
2001年9月4日(火)に東京ディズニーシーがオープンします。
園内は7つのテーマポートから構成されていますが、次のうち開設予定のないテーマポートはどれでしょう。
(1. カリビアンパイレーツ 2. ロストリバーデルタ
3. マーメイドラグーン)

〈応募方法〉下記を明記してお送りください。正解者の中から抽選で粗品をお送りします。たくさんのご応募をお待ちしております。

- 回答
- 賞品送り先住所・氏名および所属単組名
- 締め切り 8/31
- 今月の紙面で良かった点、気づいた点がありましたらご意見も是非お寄せください。
- 宛先 〒104-8380 東京都中央区京橋1-19-11 日本舗道労働組合内
道路建設産業労働組合協議会「PAVE」宛 FAX 03-3535-4810
- ※発表は次号(10月発行予定) URL <http://www1.ocn.ne.jp/~cru>

編集後記

2つの速度がバラバラな振り子を横におくと、そのうちに2つの振り子が同じ速さで動くようになる。異なった速度を持つもの同士が次第に同調化して同じ速度で動くようになるというものだ。

都市の一日が過ぎる時間はとても短い。一日中何もしなくても駆け足で過ぎ去り、気がつくと夕方だったりするが、自然の美しい田舎での一日は、同じ24時間とは思えないほど長く感じる。

私がいつも時間が足りない今の生活をそっくりそのまま田舎で行ったらどうなるだろうか?
雄大な自然の速度に同調し、豊かでしかも生産的な日々が送れたりしないだろうか?
などと考えているうちに、また一日がアッという間に過ぎて行く。

東京舗装工業社員労働組合 小林 由幸